

# 湖北の地域用水を継承するための国営事業所の取り組み

## *Action of Irrigation Project Office toward Sustainable Multifunctional Use of Irrigation Water for Rural Life and Environment in Kohoku, Shiga*

阿部 信宏  
ABE Nobuhiro

### **1. はじめに**

国営新湖北土地改良事業（以下、「本事業」という）は、「食料の安定供給の確保」、「多面的機能の発揮」、「農業の持続的な発展」及び「農村の振興」という食料・農業・農村基本法の基本理念を実現するための施策の一部である。

また現土地改良長期計画の政策目標は、「自給率向上に向けた食料供給力の強化」、「田園環境の再生・創造」、「農村協働力の形成」であり、旧長期計画の「いのち」、「循環」、「共生」から、その基軸を地域力という視点も含めたものへシフトしているものとする。

食料供給力の強化に繋がる農業生産基盤整備は生命を維持する根源である。そこに地域のコミュニティ及びアメニティを強化することにより地域力を増大していこうとする流れであると解している。

食料基地として重要な湖北の農地・農業・水と、歴史に支えられてきた伝統・文化・環境といった湖北の宝を一体のものとして良好な形で次の世代へ継承していくことが重要である。

本事業の完了年度という節目に、「水」と「農」をより多くの人達で支えていくことができないうかという強い思いを持ちながら、本事業における地域用水機能の維持・増進に資するための取り組みをまとめたものである。

### **2. 事業の概要**

本事業地区は、滋賀県の琵琶湖北東部に位置し、一級河川淀川水系姉川、草野川、高時川及び余呉川沿岸の長浜市内の水田 4,599ha の農業地域である。

本事業地区の用水源は、古くからこれら河川からの取水が大部分を占め、一部はため池、湧水、集水暗渠などに依存していたが、各河川の扇状地に拓けた地域であるため、用水の地下浸透が甚だしく、頻繁に用水不足を生じる地域であった。そこで、国営湖北土地改良事業(昭和 40 年度～昭和 61 年度)が実施され余呉川頭首工、高時川頭首工及び草野川頭首工の取水施設並びに余呉湖補給揚水機場を造成し、余呉湖・琵琶湖に用水補給源を求め、用水不足を解消してきた。

しかし近年、地区の営農形態の変化により用水量が増加していることに加え、環境・景観保全の面から余呉湖の水源地利用が一部困難になってきており、用水補給源としての機能が十分に発揮されていない。また、頭首工、水路等の水利施設については経年変化による劣化のため漏水がみられ、維持管理労力も増加している。

このため、本事業では琵琶湖から余呉湖に補給する余呉湖第二補給揚水機及び余呉湖第二補給送水路を増設するとともに、老朽化した水路等の改修を行い、用水の安定的な供給による農業経営の安定を図り、併せて地域用水機能の維持・増進に資するものである。

### **3. 環境と調和した地域用水への取組**

本事業地区は、琵琶湖と余呉湖、北東部に連なる山々及びそれらを源とした河川等の豊かな自然と、本地域特有の気象に適応するための先人の知恵と努力、その営まれてきた農業や生活活動とが調和し、長い年月を経て、湖北特有の自然・景観及び歴史・文化が形づくられてきた。

そして、農業用水は、長い歴史の中で、生活用水、防火用水、景観保全等の地域用水機能も併せ持ち、地域生活と密接な関係を保ちながら維持・保全が図られてきた。

本事業は、地域の景観、環境及び生態系に配慮し農業用水が有している地域用水機能の維持・増進に資するものとし、豊かな生態系や美しい田園景観との調和に配慮した用水路等の整備を実施するものである。

### **4. 湖北の地域用水を継承するための国営事業所の取り組み**

環境及び景観に配慮した基幹施設及び水路の整備・更新、これらを監視制御する水管理システムの全面更新、施設の機能診断結果を診断表と写真をセットにしたデータ化、維持管理及び更新等の判断材料として業務の効率化を推進する GIS 等、ハード面については万全を期す形で事業完了を迎えることが出来た。また、これらは確実にその効果が発現されている。

しかし、地域用水を機能的に継承するにはハード面だけの強化では十分とは言えない。土地改良長期計画に示されているように「地域力」を活かすことが重要である。地域力とは、地域の伝統・文化・環境そしてなにより「人」である。

そのため、土地改良区が行う地域用水機能増進事業の更なる円滑な推進の一助となるよう、当事業所では今年度、地域で熱心な取り組みをしている方々の参加によるワークショップ及び水や農の大切さを再認識し、いかに多くの人で支えていくべきかを考えるシンポジウムを開催した。

### **5. 地域の方々の熱い思い**

ワークショップ及びシンポジウムの代表的な意見は次のとおりである。

- ・ 農業や食の大切さを、食事の時に子供に教えることが重要。
- ・ 農家だけで守ることができなくなった農村の環境を、地域で守る。
- ・ 地域の共通の財産・自分たちが住んでいるところという認識が必要。

### **6. 考察**

地域用水を継承するための本事業の取り組みは上述のとおりであるが、事業所の係長として何ができたのか。職責の範囲内の業務は一定程度達成しているものと考えているが、それ以外に広い視野で何かもっと提案及び実行等すべきことはなかったのか。自問してしまふ場面が多々ある。農業用水が地域用水機能を発揮するには、地域コミュニティが重要である。地域コミュニティ活性化の一助となる「農村コミュニティ再生・活性化支援事業」及び「農山漁村(ふるさと)地域力発掘支援モデル事業」等、農村協働力の原点にも成りうる地域づくりのためのソフト事業を、地域に密着した国営事業所が関係部署と連携しながら、もっと推進できたのではないかと考える。